

元気を炊き出し 在京東松島会 杉良太郎さん



避難者にモンゴル料理を振る舞う関係者—東松島市矢本東小

「復興支援」で故郷の復興を支援し、東松島出身者で組織する在京東松島会、桜井政文会長は、中国籍の在日モンゴル人で組織するモンゴル民族文化基金（ガンドシ理事長、本部・東京）の協力です。3月31日、避難所となつている東松島市矢本東小で被災者にモンゴル料理を振る舞った。

桜井会長と、ガンドシ理事長が得意にしている肉入り野菜スープと「肉汁のおかゆ」の2品を用意し、失本東小には30日現在で約300人が避難しており、関係者は牛肉の香りが漂う熱々の汁を被災者に提供した。

震災直後から両親と妹の4人で避難している矢本東小2年下村光樹君（8）は「避難所ではおにぎりを食べているが、お腹が空っぽだ。さつぱりなものがいい。モンゴル料理は肉がおいしい。体を温まるといい。」と笑顔で話した。

同基金役員たちは炊き出しとともに、子どもたちにもモンゴルの童話の絵本や、パレーボールの球もプレゼント。馬頭琴の演奏もあった。桜井会長は「モンゴルの人たちの一日も早い復興を願う。」と話した。

同基金は、日本の支援を受けて留学生のバックアップなどの活動に取り組む。ガンドシ理事長は「日本は第二の故郷。緑のある東松島をこれから暮らし続けたい。」と話した。

東日本大震災の被災地を支援しようと、俳優の杉良太郎さん（86）、演歌歌手の伍代夏子さん（80）夫妻が、1日から3日間、松島市に滞在した。

この日は、同会と同基金が都内で行った被災地支援の基金活動で寄せられた18万8326円を東松島市に贈った。



被災者に手作りカレーを振る舞う杉さん—石巻市大須小

この日は、同会と同基金が都内で行った被災地支援の基金活動で寄せられた18万8326円を東松島市に贈った。

東日本大震災の被災地を支援しようと、俳優の杉良太郎さん（86）、演歌歌手の伍代夏子さん（80）夫妻が、1日から3日間、松島市に滞在した。

この日は、同会と同基金が都内で行った被災地支援の基金活動で寄せられた18万8326円を東松島市に贈った。

約300人が避難している同市雄勝町大須の大須小では、この日の昼食を用意した。デビニュー前にカレー店で住み込みで働いた経験を持つ杉さんが、肉がたっぷり入り、ニンニクを効かせたカレーを調理。伍代さんは豚汁を鍋からよそい、被災者一人一人に手渡した。

杉さんは、スタッフ約25人とキヤンピングカーなどで石巻市入り。同市雄勝町の旧水産研究所や同市雄勝の万石浦中などを回った。衣類や暖房器具、ガソリンなど大量の救援物資もトラックで運び込み、各避難所などに提供した。

杉さんの息子で俳優の山田純大さん（38）も同行。杉さんは「津波の力のすごさを感じた。つらいけれど、しばらくは泣いて、休んだら歩き出さなければならぬ。精神的にまいらないよう心のケアも必要だ」と話した。

カレーライスを味わった同市雄勝町大須の主婦阿部すみ子さん（51）は「本格的なカレーは久しぶりでおいしかった。杉さんは男らしく」と感嘆していた。

を恐れ、炊き出しを行い、自慢のカレーライスを振る舞った。

約300人が避難して

この日は、同会と同基金が都内で行った被災地支援の基金活動で寄せられた18万8326円を東松島市に贈った。

東日本大震災の被災地を支援しようと、俳優の杉良太郎さん（86）、演歌歌手の伍代夏子さん（80）夫妻が、1日から3日間、松島市に滞在した。

この日は、同会と同基金が都内で行った被災地支援の基金活動で寄せられた18万8326円を東松島市に贈った。

約300人が避難している同市雄勝町大須の大須小では、この日の昼食を用意した。デビニュー前にカレー店で住み込みで働いた経験を持つ杉さんが、肉がたっぷり入り、ニンニクを効かせたカレーを調理。伍代さんは豚汁を鍋からよそい、被災者一人一人に手渡した。

杉さんは、スタッフ約25人とキヤンピングカーなどで石巻市入り。同市雄勝町の旧水産研究所や同市雄勝の万石浦中などを回った。衣類や暖房器具、ガソリンなど大量の救援物資もトラックで運び込み、各避難所などに提供した。

杉さんの息子で俳優の山田純大さん（38）も同行。杉さんは「津波の力のすごさを感じた。つらいけれど、しばらくは泣いて、休んだら歩き出さなければならぬ。精神的にまいらないよう心のケアも必要だ」と話した。

カレーライスを味わった同市雄勝町大須の主婦阿部すみ子さん（51）は「本格的なカレーは久しぶりでおいしかった。杉さんは男らしく」と感嘆していた。